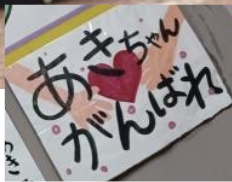


民報 ゆうばり 夕張市議選挙 無投票当選!

日本共産党の議席 櫻井あきさんへ!



くまがい議員の宝の議席引き継ぐ!

くまがい桂子議員から櫻井あき候補へ日本共産党の議席を引き継ぐことが焦点になっていた、2023年の夕張市議会議員選挙。4月16日に公示された同選挙は、立候補者数が定数と同数の8名であつたため、無投票となり、櫻井あき候補は初当選となりました。

大勢の支援者に背中を押されて

公示当日は、朝からあいにくの冷たい強い雨。そんな中、第一声には40名を超える支援者や友人が集まり、櫻井あき候補の

候補者カーに乗り込有する議会へと議会議事改革を実現してきま改革を実現してきま南に北に、候補者カーで全市を回り、要所、要所で政策を訴えた櫻井あき候補

共感を呼んだ訴え

「日本共産党は、夕張市の財政破綻の経験から、情報を隠す議会から、情報を共

その声で政治を動かしています。」 「昨秋に行った『くらし、子育て、まちづくり市民アンケート』で寄せられたご要望をもとに『夕張をこ

公共交通の充実させること、防犯灯や街灯の整備を進めること、認知症予防のために補聴器購入の補助を行うことなど

「四つ目は『子どもの笑顔があふれるまちづくり』。地元

午後5時を過ぎて、選挙管理委員会から無投票当選の報が。櫻井候補は、この日応援にかけつけてくれた友人たちや選対メンバーと一緒に万歳。



4月24日、当選証書を手にした『櫻井あき市議会議員』

「三つ目は『子育てを応援するまちづくり』。学校給食の無償化、高校卒業後の医療費無料化、奨学金制度をわかりやすく伝えていくことを求めます。」

政策にまとも、その実現をめざしていきます。」 「一つ目は『住み続けたい安心のまちづくり』。

「二つ目は『豊かな文化交流のあるうるおいのまちづくり』。集会所や生活館への公的支援を行うこと、子どもから老年寄りまで活用できる公園を整備することなどをめざしていきます。」

材を生かした夕張高校をつくり『対話型教育』を進め、自分から進んで学ぶ力を育てること、市内小中学校のトイレに生理用品を置くことをめざします。



「万歳!がっちり握手 2003年からバトンを引き継いできた、くまがい桂子議員とがっちり握手。事務所は大きな拍手に包まれました。」

勝共連合＝靈感商法・高額献金の「旧統一協会」 共産党への卑劣なビラは民主主義を壊す大問題

旧統一協会の 謀略ビラに ご注意ください

…詳しくは別刷りのチラシをご覧ください…



る卑劣な誹謗中傷で
す。

勝共連合は、旧統一協会の創始者＝文鮮明がつくった団体で、靈感商法・高額献金など反社会的活動をしてきた旧統一協会と表裏一体となつて活動しています。そして、日本共産党への攻撃の先兵として自民党が利用してきました。

勝共連合(＝旧統一協会)の日本共産党攻撃のビラまかれる

4月11日地方選挙後半に入ろうとしている時期、国際勝共連合の謀略ビラが紅葉山でまかれました。その内容は「暴力革命」を共産党にすすりつける、まさしく謀略ビラ。

公安調査庁が70年にわたって調べても何一つ証拠の出ないウソですが、知らない人が読めば「共産党怖いかも」とな

を壊す大問題です。反社会的な勝共連合＝旧統一協会を、実態を知らながら利用する自民党は、その責任をどうとるのでしょうか。

【前号字句訂正】

2面(故)田澤公代様経歴について、昭和53年は昭和28年(1953年)の間違いでした。訂正しお詫びします。



みなさま、この度は沢山のあたたかい応援をいただき誠にありがとうございました！
手作り看板の取付け、雨の出発式、ずぶ濡れの街宣、どれも思い出深いものに。寒い中、激励をくださったみなさん、協力してくれた友人達に心から感謝しています。
無投票当選で、きちんと選ばれたかった思いはありますがこれからは本番、気を引き締めて頑張つてまいります。
17日から22日まで是由仁の大竹まゆみ候補の応援へ。夕張で体験できなかった選挙戦を知ることができました。結果は惜しくも12票差で届かず…残念で、もったいなくて…

現実の厳しさを目の当たりにしました。私は、手にした当選証書に議席の重さ、大切さを改めて感じています。頂いたばかりのお祝いのカードは褒められ過ぎてこそばゆいですが、その言葉を胸に前へ進みます☆



4月24日当選証書付与



登さん、まゆみさん、大変お世話になりました



岩渕 友「国会かけある記」
参議院議員
岩渕 友

GX推進法案を廃案に

東京電力福島第一原発事故後、脱原発を決定したドイツで15日、すべての原発の稼働が停止しました。一方、原発事故の被害が続く日本では、岸田政権が原発回帰へと突き進んでいます。折しも15日から札幌でG7気候・エネルギー・環境大臣会合が開催されました。会合では原子力についても議論され、日本政府は共同声明に「原子力の重要性」を書き込もうとしていましたが、いくつかの国が反対し、その主語が「我々」から、「原子力を活用していく国々」となりました。

政府が原子力発電に固執するもとで、今国会で議論されているのがGX関連法案です。参議院でもその一つであるGX推進法案が審議入りし、本会議質問に立ちました。脱炭素の名で国民の投資を呼び込むという内容で、「脱炭素」電源には、原子力や化石燃料に水素やアンモニアを混ぜて燃やす発電も含まれています。これは原子力や石炭火力の延命につながるものです。

世界の研究者の論文によれば、世界123カ国で25年間データを分析した結果、原子力発電に熱心な国は、再生可能エネルギーの導入量が少ないことが確認され、原子力発電と再生エネルギーの利用は相互に排除しあう傾向があることが分かったといえます。政府は「原子力も再生エネルギーも」と言いますが、原子力の推進が再生エネルギーの導入を妨げることに なります。

法案には反対の声が広がっています。原発事故は終わっていません。みなさんと力を合わせ、徹底的な審議で廃案へ追い込みたい。